



観察の様子

日本で古くから使われてきた赤色顔料の素材には、大きく2種類あります。1つは水銀を主原料とする水銀朱と呼ばれるもので、東海地方では三重県南部で産出します。もうひとつはベンガラです。ベンガラには、赤鉄鉱を原料とするものと、微生物の一種である鉄バクテリアを原材料とするものがあることがわかっています。

観察の結果、前方後方墳丘墓S201から出土した高杯(たかつき)の内面と底部に水銀朱が斑状に付着していることが確認できました。器の中に水銀朱を入れた可能性があるそうです。

また採取された顔料の成分の分析結果は、持ち帰って分析するとのことです。廻間遺跡の赤色顔料の正体が明らかになりましたら、このホームページで報告します。



水銀朱が付着していた廻間遺跡出土 高杯

4月8日、石器の材料の調査に、研究者が来館しました。

調査研究課の鞆飼です。

4月8日(水曜日)、明治大学の中村先生他2名が来館されました。愛知県内の遺跡から出土した磨製石器・打製石器の材料を顕微鏡を使って観察するのが目的です。



中村先生の観察の様子



観察の結果、後期旧石器時代の遺跡として知られる瀬戸市上品野遺跡で出土した打製石斧の中に、透閃石(とうせんせき)製の製品が見つかったからです。

透閃石は蛇紋岩の一種で、トレモライトとも呼ばれる石です。白色～緑色の細長い結晶が顕微鏡で確認できるのが特徴で、長野県北部から新潟県の姫川(ひめかわ)流域で採れるそうです。ナウマン象の化石で知られる野尻湖に近い、長野県信濃町日向林B遺跡(ひなたばやしBいせき)の発掘調査では、この石を材料とした石斧

が多く出土し、注目を浴びました。透閃石を使った石斧は、日本海側の遺跡で出土することが多いそうです。愛知県内で透閃石製の石器が確認されたのは初めてで、貴重な成果となりました。



透閃石製の石斧(上品野遺跡出土)

4月に催した「春の特別公開2015」の様子を紹介します。

調査研究課の鶏飼です。今年度も当Webページをよろしくお願いします。

4月4日(土曜日)から19日(日曜日)まで、「春の特別公開2015」を開催しました。今回は、(公財)愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターの平成26年度の新出土品展「やとみ新発見展」との共催です。新出土品展では、当センター・埋文センターが調査した豊田市下山地区、埋文センターが調査した設楽町の各遺跡から出土した遺物や、写真パネルを展示し、多くの方に調査の成果をご覧いただきました。



看板



朝日遺跡 重文展示

また、「やとみ春まつり」が開催された4月4日(土曜日)・5日(日曜日)に、当センターが火起こし体験、埋文センターが風船つり、射的などの楽しいイベントを催し、4日は491名、5日は337名の来館者がありました。特別公開については、中日新聞、クローバーTVでも取り上げていただき、弥富市をはじめ、弥富市外や県外からも多くの来館者がありました。19日までの会期中の来館者は923名を数え、盛況のうちに終わることが出来ました。



火起こし体験

秋には弥富市市民文化展にあわせて、朝日遺跡の重要文化財の特別公開の実施する予定です。そのときにもぜひおいで下さい。

関連コンテンツ

- [愛知県埋蔵文化財調査センター](#)
 - [総務課](#)
 - [事業の内容](#)
 - [利用の案内](#)
 - [アクセスマップ](#)
 - [アーカイブ](#)
 - [平成27年度 発掘調査報告](#)
 - [平成27年度 お知らせ](#)
 - [平成27年度 活動報告](#)
 - [平成27年度 整理作業報告](#)

問合せ

愛知県 埋蔵文化財調査センター

電話: 0567-67-4164

E-mail: maizobunkazai@pref.aichi.lg.jp